

特42

456

訂正
觀世流儀内百拾番

八
一
満

99

鳴

第一 月を南に海原やぐり鳴る浦

是ハ都方より出

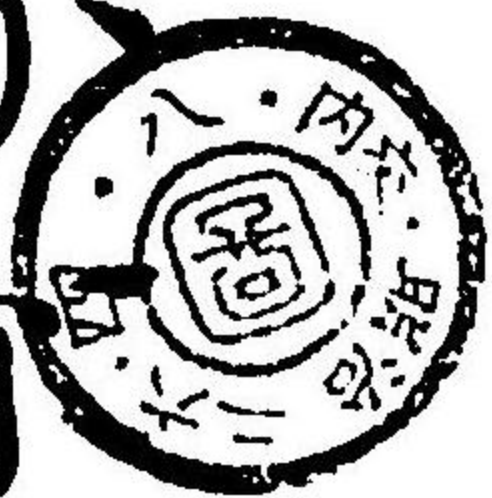
林未回國を云ひの程



立西國行脚と云はり

波の震るる浪乃松をり毎

づり日の雲も影をひて其方の空



と行^レきよりのく^レゆ^レみ路^レ入^レては^レ鳴^レ
の浦^レよる^レる^レる^レり^レく^レ急^レな^レり^レは^レ是^レの^レ也

讃^レ波^レ乃^レ國^レの^レ鳴^レの^レ浦^レよる^レる^レる^レり^レく^レ急^レ
言^レて^レく^レは^レ是^レの^レ也^レ壇^レ屋^レよる^レる^レる^レり^レく^レ急^レ
明^レさ^レる^レ也^レと^レ思^レふ^レ面^レ白^レ也^レ月^レ海^レ
上^レよ^レる^レり^レく^レ急^レな^レり^レは^レ是^レの^レ也^レ壇^レ屋^レよる^レる^レる^レり^レく^レ急^レ
漁^レ翁^レよる^レる^レる^レり^レく^レ急^レな^レり^レは^レ是^レの^レ也^レ壇^レ屋^レよる^レる^レる^レり^レく^レ急^レ

湘^レ水^レを^レゆ^レく^レ楚^レ行^レを^レた^レく^レも^レ今^レも^レ
志^レく^レは^レて^レ楚^レ火^レの^レ陰^レほ^レる^レみ^レり^レく^レ急^レ
お^レも^レと^レこ^レら^レよ^レ月^レの^レ出^レ壇^レ乃^レ松^レき^レり^レく^レ急^レ
震^レの^レも^レよ^レり^レく^レ急^レな^レり^レは^レ是^レの^レ也^レ壇^レ屋^レよる^レる^レる^レり^レく^レ急^レ
道^レ唯^レ一^レ帆^レの^レ凡^レよ^レり^レく^レ急^レな^レり^レは^レ是^レの^レ也^レ壇^レ屋^レよる^レる^レる^レり^レく^レ急^レ
雪^レの^レ浪^レ月^レの^レ行^レ海^レよ^レる^レる^レる^レり^レく^レ急^レな^レり^レは^レ是^レの^レ也^レ壇^レ屋^レよる^レる^レる^レり^レく^レ急^レ

ふ松原の陰ハ緑よりうらひて海岸
うらひも志らぬひた境の海もやけ
かゝるうらまを、鳩の浦つらひ海ま
家舟もねとよウ釣^上の浦もなま
うらぐ。震つらうて仲ゆかあゆの
小舟のほつくとみへてあつた書浦
周も長閑なまをわきわきとて

^平塩屋の縁もまもるうらひ

^平塩屋のまもるうらひ

とも思ふうらひもあつた

業^平のうらひもあつた

一見の僧もてん。一夜の宿をせうへ

習^平はゆへまよ其由もあつた

作徳因一見は僧の。おのお宿は信

うら出たらず大將軍乃は出立よる赤
地の錦めひくつれよ紫とろこの御
着宵鐘せりりらからよつら
すり。一院の使使密め大お指非違
使五位の尉源義経とらも業給ひ
はこつりあつた大將やとみ
のちよる出たしては^地を耐平家
の

方よりも言葉戦ひと終兵舟一艘
漕よきてはらうきりやうつて
陸の^河ままを侍勤よ^テ源平乃方
うもつたを兵五十騎計中もひまの
やれ^中島とらも業てとら先かきてみえ
一^中屋よ平家の方より粟七兵衛
景清とらも業とらもやとらも戦ひ

女音らひひくく^上や^上ま^上ら^上ウ^上ら^上ひ^上
 なう^上ら^上ひ^上あ^上へ^上人の^上館^上に^上ま^上は^上お^上語^上
 具^上名^上を^上あ^上の^上ひ^上り^上や^上「^上我^上名^上を^上行^上と
 け^上の^上び^上も^上ま^上も^上期^上念^上を^上あ^上の^上
 九^上の^上あ^上は^上し^上り^上名^上を^上ま^上と^上も^上
 下^上ゆ^上「^上室^上を^上ま^上と^上の^上よ^上具^上
 名^上を^上ま^上と^上の^上若^上ら^上り^上「^上音^上を^上語^上る^上小^上長^上

衣^上「^上も^上今^上も^上「^上書^上の^上あ^上
 青^上「^上乃^上落^上と^上曉^上あ^上る^上「^上志^上の^上の^上あ^上り^上
 一^上「^上耐^上の^上秋^上名^上や^上あ^上の^上「^上後^上の^上「^上は^上
 名^上の^上ま^上「^上乃^上「^上浮^上世^上の^上夢^上「^上う^上
 け^上「^上給^上あ^上「^上ま^上「^上も^上
 考^上人の^上思^上は^上「^上事^上「^上考^上の^上義^上「^上經^上の^上
 考^上「^上思^上は^上「^上事^上「^上考^上の^上義^上「^上經^上の^上

毒_上の_一行_一の_一内_一の_一つ_一く_一松_一の_一枝_一を
下_一の_一思_一ひ_一の_一さ_一の_一つ_一を_一苔_一む_一し_一る_一室_一で
受_一を_一依_一存_一す_一り_一く _下 _上 落_一花_一枝_一よ
か_一ら_一ひ_一彼_一鏡_一す_一て_一ひ_一照_一さ_一ひ_一の_一影_一を_一お_一ほ
長_一執_一め_一ち_一の_一ち_一と_一き_一さ_一し_一境_一能_一の_一境_一界_一
よ_一う_一り_一我_一と_一世_一身_一を_一考_一め_一り_一く_一修_一羅
め_一ち_一ま_一じ_一よ_一り_一ら_一る_一彼_一の_一清_一く_一さ_一る_一

葉_一因_一が_一 _下 _上 _中 か_一ら_一ひ_一も_一早_一曉_一も_一也_一
後_一と_一思_一ひ_一獲_一え_一の_一枝_一より_一甲_一冑_一を_一穿_一
し_一め_一し_一給_一ひ_一多_一判_一官_一あ_一り_一ま_一い_一せ_一り_一
我_一義_一經_一り_一幽_一窓_一あ_一る_一が_一眞_一悲_一よ_一し_一る_一
妄_一執_一め_一り_一て_一西_一海_一の_一浪_一よ_一ら_一く_一よ_一し_一生_一死_一
の_一海_一に_一沈_一輪_一き_一り _下 _上 愚_一わ_一か_一ら_一く_一社_一
生_一死_一の_一海_一に_一も_一沈_一ん_一だ_一る_一の_一月_一乃_一

三、...の夜あけと曇たむらさき
今宵の空 昔も今も思ひあは
舟と雲との合戦の道 可からず
息れえぬ 武夫の鳴らぬ月
弓のうぐす本め 夢あつらふ
箭の道は迷ひぬ 味ひまらぬや生
死乃海山をもの事やうて 結ぶ鳴れ

恨め 飛たよかくよ 執心は結り乃海の
深きよよ愛物かろがかりく
馬車あむと肩浮乃故郷よあつら
久しと年あまのよらの持あちよ角
ひまて 終る道の方程歌きあり
思ひうあつ青れま月もあま
くらが本乃渚の愛あまや海平たう

ひよ夫先を捕へ毎とら馬をな
 て打られく多あまらるるをひ
 下責戦ふ 景時行か志る
 せん判官らとを打く浪よゆれ
 へ備よ 地上 具柄もハ 横あぐ
 敵よ遠くあられくを 敵よ馬を
 中れと馬と浪向よちやうきと敵

船ちくゆり 敵ハ是と
 よりも船をよせ能きよ 既よあ
 やうきと給ひよ 景時
 を切松ひ終よりを敵く 本上諸よ
 打あられ 景時 景房 景時
 乃活る舞やあ渡息あぐ 景時
 しも是あ結くあぐ 景時

ハク存コトナクたためた多タカ美ミの念ネン命ノチあれたを
捨スツく社ヤシロ殿ノ記キも佳ヨシくあをかくせ入
まゆマユの筆フデのあアるをシテ又マタ修シユ為ヲ
道ミチのノ聲コエ 地チ 夫ソノの音ネ
志シんシとトさサるル 夫ソノの志シのノ敵トクハ
たそあよ能登守教経と也甚む
一也手あこい志りの思カレのう出たん

芸浦ゲノの具ツグの軍イクサ今イマも也ナリく
簡カン浮ウキの志シの海ウミ山ヤマ一ヒト回マヒよ
震シヅメ動カて舟フネよりノ色イロ 夫ソノの
波ナミたタく 月ツキよ志シの女メハ 劍ケンの
名ナり 夫ソノの志シの女メハ 夫ソノの
星ホシの影カゲも 夫ソノの志シの女メハ
雲クモのあアる 夫ソノの志シの女メハ

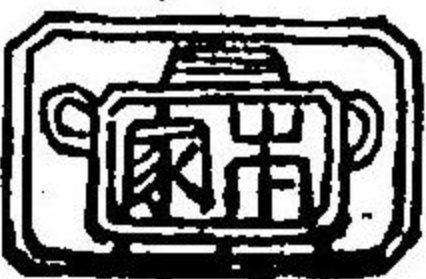
宗軍の御書は、
御書の長入浪より明て、
みしき居るむとめど、
浦のありきり高まつの
浦のありきり高まつの
浦のありきり高まつの
とありとあり

右之本者觀世太夫織部以章句
真本令放行畢

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治廿六年二月十七日印刷

明治廿六年二月同日訂正出版

明治廿六年三月廿九日別製本御届

定價三錢五厘

東京市麹町區飯田町四丁目壹番地
宮内省御用達

訂正者 觀世清廉

板權 所有

發行所 京都市上京區二条通御幸町西
兼印刷者 檜常之助



